



せせらぎ通信

カルガモの親子



筆者は、花水川で過去にも2回、カルガモ親子に出会ったことはあるが、いずれも一時のみで経時的な観察はできなかった。今年

の春から夏にかけて、幸運にも、継続して親子を観察する機会に恵まれたので、紙面を借りて紹介してみたい。

最初に出会ったのは、5月31日の朝のことであった。もっとも、友人の話では前日にこの親子を見かけたとのこと、生まれてから2日以内と思われる。翌日以降も、場所は変わりにこそすれ、毎日のように姿を見せてくれた。

始めは、草むらなどで、全容が見えなかったが、親子が揃って姿を現してくれた。雛は、11羽であった。[図①~③]

母親について離れずに泳いだり[図①]、親をまねて草の実を食べたり(カルガモは生まれてすぐに自分で食べることができ、親から給餌を受ける必要はない)、した後、疲れて中州で休んでいた[図④]。

静止画だけではなく、動画のカットからも、休み中の雛の行動で楽しい姿も紹介してみる。両足を伸ばして伸びをしたり[図⑤]、立ったまま羽繕いをしようとしたのか、足を上げた途端にひっくり返り、2回転した後、仰向けになって起き上がれず、シタバタしたり[図⑥]、頭かきをしたり[図⑦]、羽ばたきもときをし

ていた[図⑧]。まだ、翼に羽が生え揃っていないので、格好だけ親のまねをしたかったのかもしれない。雛の排泄シーンも見かけた[図⑨]一番上の雛で白い排泄物が見える]。

近寄ってきて、親が追い払うシーンがあり[図⑩]、雛の群れは大騒ぎだった[図⑪]。近づいたコイに驚いたのか、それより、水しぶきに驚いたのか…。

幸い、カラスが来ることもなく、一度ハトの鳥影を見かけたが、騒ぎにはならなかったようだ[図⑫]。むしろ、コイが

今回は、スペースの関係で、初日の出来事のみとしたが、ご要望や機会があれば、続きを紹介してみたい。(佐藤道夫



①カルガモ親子泳ぐ・雛 11羽



⑤雛・伸び



⑨雛・排泄



②親子砂地



⑥雛・ズッコケる



⑩雛警戒:上空に鳥影



③岸辺・雛 11羽



⑦雛・頭かき



⑪母親・コイを追い払う



④中州で休む



⑧雛・羽ばたく



⑫雛・コイに驚く

南平橋付近の COD 調査によって見えてくるもの

2021年6月3日(月) 調査者 永尾貴一

金目川水系ネットワークでは、毎年6月に流域54橋地点でCOD(化学的酸素要求量)の調査を行っています。南平橋のCOD値が4と高いため、その疑問を突き止めるために詳細調査を行いました。結果的に今回の南平橋の高い値の原因は不明でした。

A 地点

秦野市下水処理場の排水口から取水。金目川の水は含まない。

- 天気 晴れ前日も晴れ
- 色 少し茶色に濁っている、臭いは僅か。
- 時間 5:40
- 気温 17°C
- 水温 20°C
- **COD 値:7** (厳しいデータ)

- ・南平橋より約1km上流
- ・排水口の upstream 10m 金目川の水は 14°C と排水口より 6°C 低い
- ・鯉が5匹、他の魚、鳥、昆虫は視認できなかった。



C 地点

金目川と支流の合流点より100m上流、すなわち南平橋の300m上流。支流の水は全く含まない。

- 色 水は透明
- 時間 6:50
- 気温 17°C
- 水温 14°C
- **COD 値:1**

- ・魚、鳥、昆虫は視認できず。死んだ鮎が2匹(死後2時間から半日か?)
- ・C地点(COD値1)とA地点(COD値7)の違いは、C地点には湧水が相当流れ込んでいて下水処理場の水が希釈されていると考えられます。

<参考>南平橋のCOD値(平均)のデータ

年	COD 値	年	COD 値
2015.6	2	2016.6	2
2017.6	2	2018.6	3
2019.6	1	2020.6	2
2021.5	4		



B 地点

南平橋の上流200m右岸へ流入する支流(水路)にて取水(金目川の水は含まない)

支流の幅 2m

- 色 水は透明
- 時間 6:20
- 気温 17°C
- 水温 14°C
- **COD 値:3**

- ・魚、鳥、昆虫視認できず。



南平橋周辺の河川の変化

南平橋周辺では河川の河床工事を含めて大がかりな工事である。国土強靱計画のもと実施されている。例年、鮎は群れていたが今年は少ない。



平塚の自然と災害「地形や川から考える」

篠原憲一



金目川水系流域ネットワークでは、幼稚園や小学校で自然や災害などを紹介する出前教室を行っています。8月25日にみやのまえ放課後児童クラブ（29名）、8月26日にまつばら放課後児童クラブ

（29名）で、また9月16日には明石町保育園（20名）で出前講座を開催しました。
地球はどうなっているの？

「私たちが住んでいる地球はどうなっているのだろうか？」これを簡単に説明するのは難しいのですが、地球内部の仕組みは身近な卵に似ていて、真ん中に地核Ⅱ黄身、周りにマントルⅡ白身、一番外側にプレートⅡ殻があります。地球の表面はちょうどジグソーパズルのように10数枚のプレ



ートで覆われていて、対流するマントルの動きでいろいろな方向に動き、ぶつかり下に潜り込んでいりして、山脈や海溝を作り上げてきています。赤色は1985～1994年に発生したM4以上の地震発生場所（防災科学技術研究所）

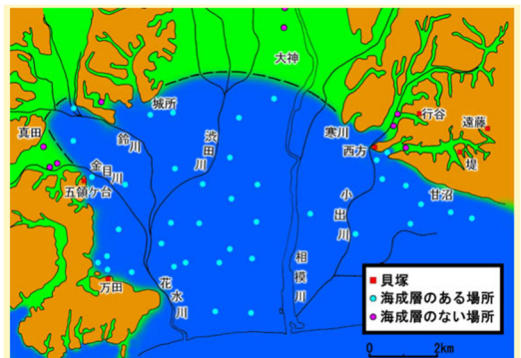
プレートの動きは大陸さえ動かし、南米大陸とアフリカ大陸は元は一つだったものが裂けて移動したものであることが大陸の形状から読み取れます。その地球が長い時間をかけ作られた自然は私たちに素晴らしい環境を与えてくれるだけでなく、時に地震や洪水土砂災害などの被害も起こすことがあります。私たちは自然をよく理解し大切にしていかなければなりません。私たちの身近には、金目川という素晴らしい環境があり、川に住む魚、植物、森の生き物など観察し、いつまでもきれいで豊かな自然を大切にしていくことが大事です。

平塚の平野 昔は海だった

地球は暖かい時期や氷河におおわれるような寒い時期が繰り返してきています。今から6千年ほど前の縄文時代では海面が今より高く、平塚の今の市街地はほとんど海の中でした。その後寒冷期に向かい海岸線が現在の位置まで後退していく段階で砂丘が形成されていきました。

八幡山は砂丘の高いところ。住宅街となっている明石町保育園の前は今は道路となっていますが、昔は明石川という小さな川が流れていました。今はほとんどが市街地となっていて暗渠化されているため小川を見ることができませんが、地形の低いところにはたくさん川が流れていました。

我が家の安全を知るためには、どんな地形の



6000年前の縄文海進期の相模平野（平塚市博物館）



ところにあるのかを知ることが大事です。白地図に標高別のカラーシールを張り付け、どんな地形になっているかを可視化して確認しました。

自分を危険から守る

自分を危険から守るカードゲーム【防災ダック】を使用しているいろいろな危険からどうすれば身を守れるのか？を考えてもらいました。その手段をわかりやすくするために、動物を見習うことを提案しました。



津波はチーターになりいち早く高いところへ、雷には亀になり地べたに低く、車の危険にはネズミになりすぐに道に飛び出さず、左右を確認して安全を確かめてから出ることなど体を動かすことで体感しました。また防災かるたも使い、ゲームをしながら防災についての学びも実施しました。

地震により起こる液状化の様子を実験装置を使い見てもらい、池や沼、田んぼを埋め立てたところなどでは液状化しやすいことを実感してもらいました。

最後に金目川水系流域ネットワーク発行の【アユのおはなし】と森に住む小さなかわいい天然記念物のヤマネの写真とご家族への案内を全員に渡し終了しました。



「湘南里川づくりみんなの会」の取り組みのご紹介



「湘南里川づくり」取り組みの紹介

丹沢大山を源流に湘南地域を流れ、相模湾に注ぐ金目川（かなめがわ）水系。

“湘南里川（やとがわ）づくり”とは、湘南地域のふるさとの川である金目川水系の河川等を地域の貴重な財産として次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市民（湘南里川見守り隊）と行政の協働により清掃、草刈、植栽、生き物観察会など河川等の保全・活用に取組む活動のことです。

この「湘南里川づくり」を流域全体に広げていくため、市民と行政とが連携し、設立された「湘南里川づくりみんなの会」。

「湘南里川づくりみんなの会」では、「湘南里川見守り隊」の会員を募集中です。

みなで、活動情報を交換したり、金目川水系の理想像について語り合いませんか？

ぜひ、ご参加ください！。

【湘南里川づくりみんなの会】事務局



写真は2019年度の「秦野市市民の日」に出展し、会の活動をPRしたときの写真です。

湘南里川づくりに一緒に取り組む「湘南里川見守り隊」を募集しています。詳細は、ホームページで！

里川づくり

検索

お問い合わせ先

湘南里川づくりみんなの会事務局

神奈川県湘南地域県政総合センター企画調整課

電話 (0463) 22-2711 (内線 2111~3)